Project class

平成 28 年度プロジェクト授業
「空間分析」

富山大学芸術文化学部教授　大氏　正嗣

「空間分析」は、建築や地域景観あるいは造形作品を包む空間そのものを理解し、その場所で繰り広げられる日常的・非日常的な人々の営みや、あるいはその空間を象徴するような出来事を見出す力を修得するための特別授業です。毎年富山県内にある有名建築物や景観的に優れた土木構造物等のいくつかをピックアップし、その中で事前に与えられたテーマに最もふさわしい場所を見つけ出し、想像できる物語を作り上げます。ただ漫然と空間を感じるのではなく、「何故その場所に惹かれるのか」、「テーマに最も適したシーンは何処なのか」など、普段思わず見過ごしてしまいがちなポイントを注意深く掘り下げ、そして第三者にわかりやすい形で表現する能力を身に付けます。

プレゼンテーションのための技法ではなく、モノを作ることの本質を自分自身できちんと理解し、それをなるべくわかりやすい言葉で表現するためのトレーニングです。創作された短い物語のうちで優秀なものは、今後パンフレットや雑誌への掲載を行うべく準備を進めています。質の良い空間を、認識を持ち数多く体験するだけも大きな経験になると考えています。

平成28年度は新たにCAP制を導入した影響もあり、受講生が３名と特別授業を開始した平成27年度と比較すると大きく減少しました。このように参加者が少数になったことに加え調査当日は生憎の天候となりましたが、富山市内の著名な４施設を見学し学生たちは様々な空間の可能性を体験しました。

今回調査を実施した施設は、「豪農の館　内山邸」、「サンシップ富山」、「ますのすしミュージアム」、「富山市民プラザ」です。学生たちは、各施設において事前に与えられたキーワードに最も適切だと考える空間を探し、自分自身なぜその空間がキーワードに適していると感じるのかを論理的に考察します。設計者がどのように空間を作ったと思うのか、なぜ印象的な空間となり得るのか、空間以外の時間や季節という要素がどのように影響しているのか。考えるべき項目は多岐にわたります。

見学を終えたのち、この授業ではキーワードと空間の関係性について自分なりの考察について発表を行うと共に学生同士で議論を行い、自分の考えた内容に関する整理をします。ある程度考えがまとまった段階に至ると、選択した空間あるいはシーンにおいて繰り広げられるであろう仮想の物語を3000字程度で文章にします。物語のストーリを深めるというのも重要ですが、それ以上に空間のイメージを十分に伝えられる文章となっているかどうかを重点的に確認します。４施設に対して３つのキーワードを事前に与えているため、４×３＝12通りの物語を作成することが可能です。授業においては各学生が２つの物語を作成します。

本授業は、芸術文化学部というものづくりと関連する場所でありながらも、制作者を志す学生たちにはなかなか取りかかる機会のない、人に伝わる文章を作成するという機会を提供しています。しかも、単純な感想や自分の考えを述べるものではなく、自らが感じ取った空間体験を人にわかるように記述するという貴重な機会であると考えています。今後も、継続的にこのような機会を提供していきます。

豪農の館内山邸１

豪農の館内山邸２

サンシップ富山１

サンシップ富山２

ますのすしミュージアム１

ますのすしミュージアム２

富山市民プラザ１

富山市民プラザ２